

共通仕様書等の一部改定及び一部訂正(平成26年3月)

基準名	ページ	編章節条枝番	項目等	改定・訂正後	改定・訂正前	備考
土木工事共通仕様書	P.3-2-22、 P.3-2-22	第3編	2-3-5 銘板工 図2-2-1	別紙2-1参照	別紙2-1参照	別紙2-1
品質管理基準	P.6	5 上層路盤工	施工 - 必須「粒度(2.36mmフルイ)」	中規模以上の工事 :1回~2回/日	1回~2回/日	別紙2-2
品質管理基準	P.6	5 上層路盤工	施工 - 必須「粒度(75µmフルイ)」	中規模以上の工事 :異常が認められたとき。	異常が認められたとき。	別紙2-2
写真管理基準	P.23	3-2-6-7-1	アスファルト舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.24	3-2-6-8-1	半たわみみ舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.25	3-2-6-9-1	排水性舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.27	3-2-6-12-1	コンクリート舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.28	3-2-6-12-6	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) 下層路盤工	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.29	3-2-6-13-1	薄層カラー舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
写真管理基準	P.30	3-2-6-14-1	ブロック舗装工(下層路盤工)	各層毎80mに1回(修正後)	各層毎40mに1回(修正後)	別紙2-3
出来形管理基準及び規格値	P.1-184	10-4-5-10-1	支承工(鋼製支承)の「支承中心間隔(橋軸直角方向)」	コンクリート橋 ±5 鋼橋 4+0.5×(B-2)	±5 4+0.5×(B-2)	別紙2-4
出来形管理基準及び規格値	P.1-185	10-4-5-10-2	支承工(ゴム支承)の「摘要」	パッド型ゴム支承及び帯状ゴム支承については、「可動支承の移動可能量」及び「可動支承の移動量」の測定は不要とする。		別紙2-4
土木工事施工管理の統一事項	P.2-10-1	10.1.1	レディーミクストコンクリートの「配合の決定に関する確認資料」	配合計画書	配合報告書	別紙2-5
土木工事施工管理の統一事項	P.2-10-2	10.1.1	レディーミクストコンクリートの「配合の決定に関する確認資料」	レディーミクストコンクリート配合計画書 様式はJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)による。	レディーミクストコンクリート配合報告書	別紙2-5
土木工事施工管理の統一事項	P.2-10-2	10.1.1	レディーミクストコンクリートの「配合の決定に関する確認資料」	レディーミクストコンクリート配合計画書 様式はJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)による。(H26.3.20改正)	レディーミクストコンクリート配合計画書 様式はJIS A 5308(レディーミクストコンクリート)による。(H23.12.20改正)	別紙2-5

場溶接に準じて考慮しなければならない。

(4) 請負者は、溶接のアークが風による影響を受けないように防風設備を設置しなければならない。

(5) 請負者は、溶接現場の気象条件が下記に該当するときは、溶接欠陥の発生を防止するため、防風設備及び予熱等により溶接作業条件を整えられる場合を除き溶接作業を行ってはならない。

- ① 雨天または作業中に雨天となるおそれのある場合
- ② 雨上がり直後
- ③ 風が強いとき
- ④ 気温が 5℃以下の場合
- ⑤ その他監督員が不相当と認めた場合

(6) 請負者は、現場継手工の施工については、圧接作業において常に安定した姿勢で施工ができるように、作業場には安全な足場を設けなければならない。

2-3-24 伸縮装置工

1. 請負者は、伸縮装置の据付けについては、施工時の気温を考慮し、設計時の標準温度で、橋と支承の相対位置が標準位置となるよう温度補正を行って据付け位置を決定し、監督員に**報告**しなければならない。

2. 請負者は、伸縮装置工の漏水防止の方法について、**設計図書**によるものとする。

2-3-25 銘板工

1. 請負者は、橋歴板の作成については、材質は JIS H 2202 (鋳物用銅合金地金) を使用し、寸法及び記載事項は、図 2-2-1 によらなければならない。~~ただし、記載する技術者等の氏名について、これにより難い場合は監督員と協議しなければならない。~~

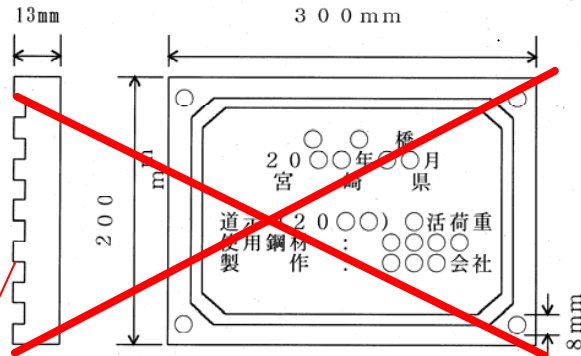
2. 請負者は、橋歴板は起点左側、橋梁端部に取付けるものとし、取付け位置については、監督員の**指示**によらなければならない。

3. 請負者は、橋歴板に記載する年月は、橋梁の竣工年月を記入しなければならない。

4. 請負者は、請負者は、橋名板を取り付ける場合は、図 2-2-2 によらなければならない。

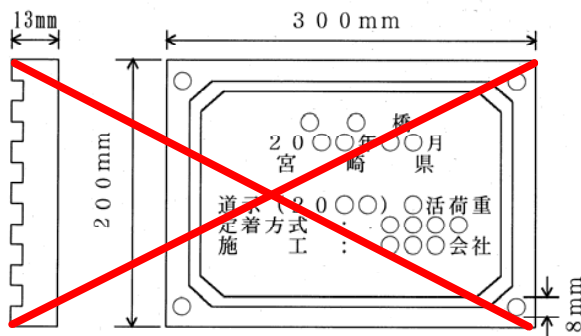
図 2 - 2 - 1 橋歴版

銘板工（鋼橋の場合）

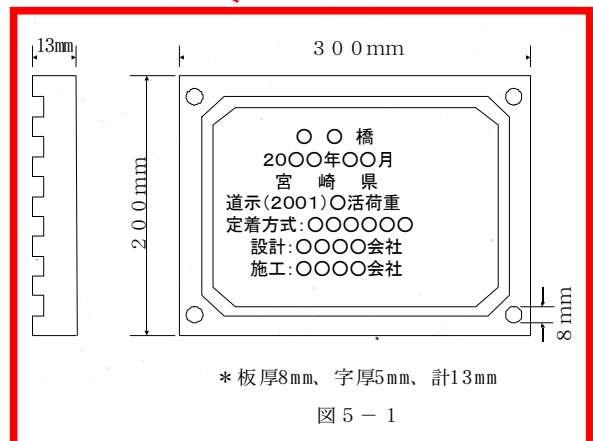
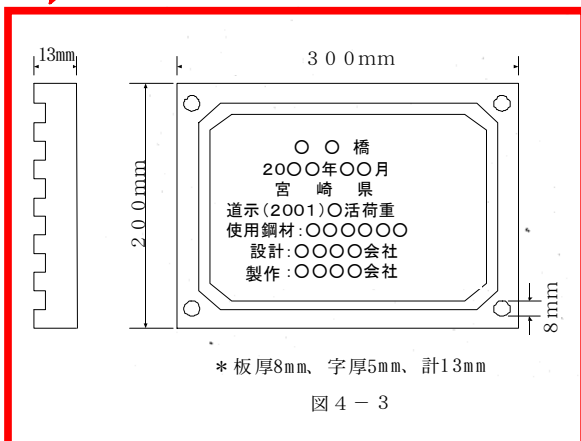


* 板厚8mm、字厚5mm、計13mm

銘板工（コンクリート橋の場合）



* 板厚8mm、字厚5mm、計13mm



品質管理基準

工種	種別	試験区分	試験項目		規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による評価	
5 上層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合90%以上 40℃で行った場合80%以上	1,000m2につき2回の割で行う。	・確認試験である。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。		
			鉄鋼スラグの修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上	施工前、材料変更時	・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	○	
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照	土木工事用骨材の規格試験実施要領等に基づく、宮崎県建設技術センターまたは県が指定する民間の試験機関が実施した試験結果報告書による。			○
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI:4以下	土木工事用骨材の規格試験実施要領等に基づく、宮崎県建設技術センターまたは県が指定する民間の試験機関が実施した試験結果報告書による。		・但し、鉄鋼スラグには適用しない。	○
		鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法便覧 [4]-10	呈色なし	施工前、材料変更時		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	○	
		鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-16	1.5%以下	施工前、材料変更時		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	○	
		鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-12	1.2Mpa以上(14日)	施工前、材料変更時		・HMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	○	
		鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法便覧 [2]-106	1.50kg/L以上	施工前、材料変更時		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。	○	
		その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下	土木工事用骨材の規格試験実施要領等に基づく、宮崎県建設技術センターまたは県が指定する民間の試験機関が実施した試験結果報告書による。		・粒度調整及びセメントコンクリート再生骨材を使用した再生粒度調整に適用する。	○
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下				○
	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-191	最大乾燥密度の93%以上 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上			・締固め度及び粒度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足しなければならない。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足してなければならないが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。	
			粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	2.36mmふるい: ±15%以内	1回~2回/日			
			粒度(75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2]-14	75μmふるい: ±6%以内	異常が認められたとき。			
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210		上層路盤仕上がり後、全幅、全区间について実施する。 ブルーフローリングを行った結果、不良箇所が合った場合は、ベンゲルマンビームによりたわみ量を測定する。		たわみ量の目標値は2mm以内とする。	
その他		平板荷重試験	JIS A 1215		1,000m2につき2回の割で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。			
		土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI:4以下	観察により異常が認められたとき。				
		含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。				
6 アスファルト安定処理路盤			アスファルト舗装に準じる						
7 セメント安定処理路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-38	下層路盤:一軸圧縮強さ[7日間] 0.98Mpa 上層路盤:一軸圧縮強さ[7日間] 2.9Mpa(アスファルト舗装)、2.0Mpa(セメントコンクリート舗装)。	施工前、材料変更時	・安定処理材に適用する。		
			骨材の修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	下層路盤:10%以上 上層路盤:20%以上	施工前、材料変更時	・アスファルト舗装に適用する。	○	

中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合は該当する。

中規模以上の工事:

中規模以上の工事:

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	5		石積(張)工	厚さ(裏込)	80m又は1施工箇所(1回) 〔施工中〕	
						法長 厚さ(石積・張)	80m又は1施工箇所(1回) 〔施工後〕 ただし、根入部は40mに1回	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	1	アスファルト舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕 80	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	2	アスファルト舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	3	アスファルト舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	4	アスファルト舗装工(加熱アス ファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	5	アスファルト舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	6	アスファルト舗装工(表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						平坦性	1工事1回〔実施中〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	1	半たわみ性舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	2	半たわみ性舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	3	半たわみ性舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	4	半たわみ性舗装工(加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	5	半たわみ性舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	8	6	半たわみ性舗装工(表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						浸透性ミルク注入状況	400mに1回 〔注入時〕	
						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	9	1	排水性舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	9	2	排水性舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	11	2	グースアスファルト舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
3 土木工事共通編	3 共通施工	6 一般舗装工	11	3	グースアスファルト舗装工(表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	1	コンクリート舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	2	コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	3	コンクリート舗装工(セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	4	コンクリート舗装工(アスファルト中間層)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	5	コンクリート舗装工(コンクリート舗装版工)	石粉、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						スリップバー、 タイバー寸法、 位置	80mに1回 〔据付後〕	
						鉄網寸法 位置	80mに1回 〔据付後〕	
						平坦性	1工事1回〔実施中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕	
						目地段差	1工事に1回	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	6	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) 下層路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	7	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	8	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	9	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	10	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ 転圧状況	400mに1回 〔施工中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕	
						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	1	薄層カラー舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

編	章	節	条	枝番	工 種	写真管理項目		摘 要
						撮影項目	撮影頻度[時期]	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	2	薄層カラー舗装工(上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	3	薄層カラー舗装工(上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	4	薄層カラー舗装工(加熱アス ファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	5	薄層カラー舗装工(基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
						タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
						厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎80mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	1	ブロック舗装工(下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
						整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
						厚さ	各層毎200mに1回(200m未 満のものは2回)〔整正後〕	
						幅	各層毎 40 ⁸⁰ mに1回 〔整正後〕	

別紙 2 - 4

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部	± 3 ℓ 10 ± 4 ℓ > 10	
						材		部材長 ℓ (m)
10 土 木 工 事 共 通 編	4 一 般 施 工	5 共 通 的 工 種	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 + 10 以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋	鋼橋
							± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							
10 土 木 工 事 共 通 編	4 一 般 施 工	5 共 通 的 工 種	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 + 10 以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート橋	鋼橋
							± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						支 承 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5	
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所		
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)</p> <p>支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌ずきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		パッド型ゴム 支承及び帯状 ゴム支承につ いては、「可 動支承の移動 可能量」及び 「可動支承の 移動量」の測 定は不要とす る。

10 . 材料関係

青：旧
赤：新

10.1 レディーミクストコンクリート

10.1.1 製造会社の材料試験結果、配合の決定に関する確認資料

土木工事共通仕様書の第1編3-3-2工場選定における「製造会社の材料試験結果」及び「配合の決定に関する確認資料は、下記のものとする。

(1) 材料試験結果

セメント、骨材、練り混ぜ水、混和材の試験成績表

(2) 配合決定確認資料

配合報告計画書、配合計算書

ただし、コンクリート品質管理監査会議の監査に合格した工場のコンクリートを使用する場合には、「品質管理監査合格書の写し」と「レディーミクストコンクリート配合報告計画書」のみの提出とすることができる。

旧

レデーミクストコンクリート配合報告書

No.

平成 年 月 日

殿

製造工場名

配合計画者名

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼 び 方	標準品・特注品の区分	骨材の種類による区分	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法による区分	セメントの種類による区分
指定事項 (11)	単 位 容 積 質 量	(kg/m ³) (t/m ³)		空 気 量	%	
	コンクリートの温度	最高・最低	℃	混 和 材 料 の 種 類		
	呼び強度を保証する材令		日	アルカリ骨材反応抑制方法		

使 用 材 料 (12)

セメント	製造会社名		比 重		R ₂ O (%) (13)	
細 骨 材	産 地 又 是 品 名		粗 粒 率		比 重	絶 乾
						表 乾
粗 骨 材	産 地 又 是 品 名		実 績 率 又 是 粗 粒 率		比 重	絶 乾
						表 乾
混 和 剤	製 品 名	種 類		細骨材の塩分	%	
混 和 材	製 品 名	種 類		水	種 類	

配 合 表 (kg/m³) (14)

セメント	水	細 骨 材	細 骨 材	粗 骨 材	粗 骨 材	混 和 剤	混 和 材
水セメント比	%	細骨材率	%	コンクリートに含まれる塩化物質 (塩素イオンとして)		kg/m ³ 以下	

備 考

- 注 (11) 呼び方欄以外に指定された場合に記入する。
 (12) 配合設計に用いた値を記入する。
 (13) ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。
 (14) 骨材について普通骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で、軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で表す。

旧 JIS(H23.12.20 改正)		レディーミクストコンクリート配合計画書				No. _____				
殿						平成 年 月 日				
		製造会社・工事名								
		配合計画者名								
工 事 名 称										
所 在 地										
納 入 予 定 時 期										
本配合の適用期間 ^{a)}										
コンクリートの打込み箇所										
配 合 の 設 計 条 件										
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号				
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量		%				
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m ³				
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度		最高・最低				
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ^{b)}			水セメント比の目標値の上限		%				
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の目標値の上限		kg/m ³				
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限		kg/m ³				
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランプ増大量		cm				
	塩化物含有量	kg/m ³ 以下								
	呼び強度を保證する材齢	日								
使 用 材 料 ^{c)}										
セメント	生産者名			密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{d)} %				
混和材	製品名	種類		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{e)} %				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ^{f)}		粒の大きさの範囲 ^{g)}	粗粒率又は実積率 ^{h)}	密度 g/cm ³	微粒分量の範囲 ⁱ⁾ %	
				区分	試験方法					
細骨材										
粗骨材										
混和剤	製品名			種類		Na ₂ Oeq ^{j)} %				
混和剤										
細骨材の塩化物量 ^{k)}		%	水の区分 ^{l)}			目標スラッジ固形分立 ^{m)}		%		
配 合 表 ⁿ⁾ kg/m ³										
セメント	混和材	水	細骨材	細骨材	細骨材	粗骨材	粗骨材	粗骨材	混和剤	混和剤
水セメント比		%	水結合材比 ^{o)}			%	細骨材率		%	
備 考										

土木工事施工管理の統一事項

新 JIS (H26.3.20 改正)

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

殿

製造会社・工事名

配合計画者名

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間 ^{a)}	
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
指定事項	セメントの種類	呼び方欄に記載	空気量		%
	骨材の種類	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量		kg/m ³
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	コンクリートの温度		最高・最低
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ^{b)}		水セメント比の目標値の上限		%
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	単位水量の目標値の上限		kg/m ³
	水の区分	使用材料欄に記載	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限		kg/m ³
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	流動化後のスランプ増大量		cm
	塩化物含有量	kg/m ³ 以下			
	呼び強度を保證する材齡	日			

使用材料^{c)}

セメント	生産者名		密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{d)} %					
混和材	製品名	種類	密度 g/cm ³		Na ₂ Oeq ^{e)} %					
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ^{f)}		粒の大きさの範囲 ^{g)}	粗粒率又は実積率 ^{h)}	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 ⁱ⁾ %
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材										
粗骨材										
混和剤	製品名			種類				Na ₂ Oeq ^{j)} %		
混和剤										
細骨材の塩化物量 ^{k)}		%	水の区分 ^{l)}			目標スラッジ固形分立 ^{m)}		%		
回収骨材の使用法 ⁿ⁾		細骨材			粗骨材					

配合表^{o)} kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材	細骨材	細骨材	粗骨材	粗骨材	粗骨材	混和剤 ^{p)}	混和剤
水セメント比		%	水結合材比 ^{q)}			%	細骨材率		%	

備考